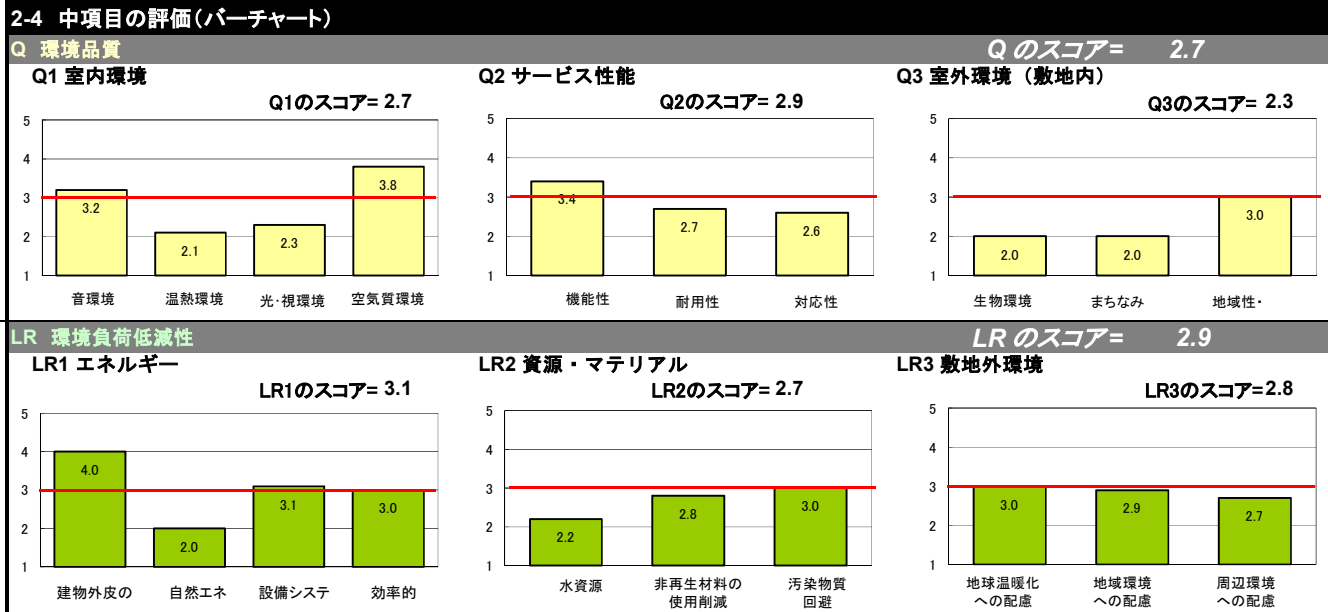
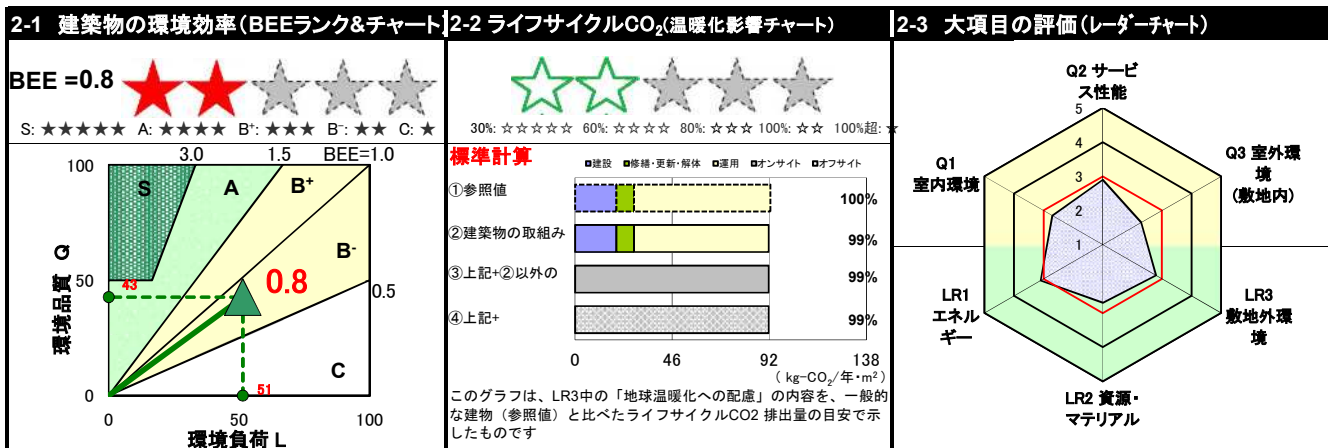


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 23038

建築物名称	(仮称)プラチナコート川崎南町新築工事
建築主	株式会社スミカ 代表取締役 味戸 吉春
建築物の所在地	川崎市川崎区南町16番22、23、24
設計者氏名、建築士事務所名	繁野 浩一 株式会社アクシス 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	4,166.93㎡
用途	共同住宅、店舗
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上15階
工事完了予定年月	令和7年10月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要		1-2 外観		23038
建物名称	(仮称)プラチナコート川崎南町 新築工事	階数	地上15F	外観パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください
建設地	神奈川県川崎市川崎区南町16番22.23.24	構造	RC造	
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	140 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2025年10月 予定	評価の実施日	2023年12月15日	
敷地面積	575 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社アクシス一級建築士事務所 繁野 浩一	
建築面積	314 m <sup>2</sup>	確認日	2024年1月29日	
延床面積	4,167 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社アクシス一級建築士事務所 繁野 浩一	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>緑の保全・回復(G)</b>		<b>Gの平均点</b>	<b>2.6</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		1.9/4.3	2.2
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>		<b>Wの平均点</b>	<b>2.9</b>
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	断熱等性能等級4相当を取得	1.4/2.1	3.3
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御	カーテンレール		
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		1.1/2.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制		3.2/5.0	3.2
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI=0.99		
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.5/4.7	2.7
2 非再生性資源の使用量削減	GL工法の採用		
3 3.2 フロン・ハロンの回避	ODP=0.01未満、GWP=50未満		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>		<b>Rの平均点</b>	<b>2.8</b>
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	0.3/0.5	2.9
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.1/4.0	2.7
2 非再生性資源の使用量削減	GL工法の採用		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	3.0
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>		<b>Hの平均点</b>	<b>2.8</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		1.1/2.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱等性能等級4相当を取得	3.2/5.0	3.2
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI=0.99		
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.8**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>建設段階</b>			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
<b>修繕・更新・解体段階</b>			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
<b>運用時のエネルギー</b>			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制		3.2/5.0	3.2
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI=0.99		
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				重点項目					環境配慮設計の概要記入欄		評価点		重み係数		全体						
配慮項目	重点項目	G	W	R	H							評価点	重み係数	評価点	重み係数			全体					
																			Q 建築物の環境品質				
Q1 室内環境																			0.40	-	2.7		
1 音環境																			-	0.15	3.2	1.00	3.2
1.1 室内騒音レベル																			-	-	-	-	-
1.2 遮音																			-	-	3.2	1.00	-
1 開口部遮音性能																			-	-	5.0	0.30	-
2 界壁遮音性能																			3.0	-	3.0	0.30	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)																			1.0	-	1.0	0.20	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)																			3.0	-	3.0	0.20	-
1.3 吸音																			3.0	-	3.0	-	-
2 温熱環境																			-	0.35	2.1	1.00	2.1
2.1 室温制御																			-	-	3.3	0.50	-
1 室温																			-	-	3.0	0.63	-
2 外皮性能																			-	-	4.0	0.38	-
3 ゾーン別制御性																			3.0	-	-	-	-
2.2 湿度制御																			-	-	1.0	0.20	-
2.3 空調方式																			-	-	1.0	0.30	-
3 光・視環境																			-	0.25	2.3	1.00	2.3
3.1 昼光利用																			-	-	3.4	0.30	-
1 昼光率																			-	-	5.0	0.50	-
2 方位別開口																			-	-	1.0	0.30	-
3 昼光利用設備																			-	-	3.0	0.20	-
3.2 グレア対策																			-	-	3.0	0.30	-
1 昼光制御																			-	-	3.0	1.00	-
3.3 照度																			-	-	1.0	0.15	-
3.4 照明制御																			-	-	1.0	0.25	-
4 空気質環境																			-	0.25	3.8	1.00	3.8
4.1 発生源対策																			-	-	4.0	0.63	-
1 化学汚染物質																			-	-	4.0	1.00	-
4.2 換気																			-	-	3.6	0.38	-
1 換気量																			-	-	3.0	0.33	-
2 自然換気性能																			3.0	-	5.0	0.33	-
3 取り入れ外気への配慮																			-	-	3.0	0.33	-
4.3 運用管理																			-	-	-	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視																			3.0	-	-	-	-
2 喫煙の制御																			3.0	-	-	-	-
Q2 サービス性能																			-	0.30	-	-	2.9
1 機能性																			2.2	0.40	3.8	1.00	3.4
1.1 機能性・使いやすさ																			3.0	0.40	5.0	0.60	-
1 広さ・収納性																			3.0	-	3.0	-	-
2 高度情報通信設備対応																			3.0	-	5.0	1.00	-
3 バリアフリー計画																			3.0	1.00	-	-	-
1.2 心理性・快適性																			1.0	0.30	2.0	0.40	-
1 広さ感・景観																			3.0	-	3.0	0.50	-
2 リフレッシュスペース																			3.0	-	-	-	-
3 内装計画																			1.0	1.00	1.0	0.50	-
1.3 維持管理																			2.5	0.30	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計																			3.0	0.50	-	-	-
2 維持管理用機能の確保																			2.0	0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性																			2.7	0.30	-	-	2.7
2.1 耐震・免震・制震・制振																			3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)																			3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能																			3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数																			2.9	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数																			3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔																			2.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔																			2.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔																			3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔																			5.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔																			2.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性																			1.8	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備																			1.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備																			2.0	0.20	-	-	-
3 電気設備																			3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法																			1.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備																			2.0	0.20	-	-	-



評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	4.0		-	-	○	○	-	○	-	-	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	2.0		-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	4.0		-	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0		1.0	-	-	-	1.0	-	-	1.0	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	1.0		-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	4.0		2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

**主な指標**

**Q1 室内環境**

2.1.3 外皮性能

窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) -	
U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -	
住戸部分システムU値 - 外皮UA値 -	η AC - η AH -

3.1.1 昼光率

昼光率 0.0%

4.2.2 自然換気性能

自然換気有効開口率 0.0%

**Q2 サービス性能**

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース .0㎡ /人 病床 .0㎡ /床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 0.0 VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観

天井高 0 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 25 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 20 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 0 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 0.0%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 - N/m2

**Q3 室外環境(敷地内)**

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 30% 建物緑化指数 3%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 42% 水平投影面積率 6% 地表面対策面積率 18% 舗装面積率 33%

**LR1 エネルギー**

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI<sub>m</sub> - 昇熱等性能等級 等級4 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡

採光を満たす教室数	80.0%	採光を満たす住戸数	80.0%
通風を満たす教室数	80.0%	通風を満たす住戸数	80.0%

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI<sub>m</sub> 非住宅 - 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

**LR2 資源・マテリアル**

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品E - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 0.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(C) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(C) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(C) 地球温暖化係数(GWP)

**LR3 敷地外環境**

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	159%	棟間隔指標Rw	0.07
地表面対策面積率	26.0%	屋根面対策面積率	0.0%
外壁面対策面積率	0.0%	見付面積Sb	0 m
基礎高さHb	17.7 m	見付面積Sb	㎡
緑地	10㎡	水面	㎡
保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡
再帰性反射対策面	㎡		㎡